

第7回東吾妻町総合教育会議会議録

日 時 令和4年2月24日(木) 午後3時15分～午後4時13分

場 所 役場 3階 第2委員会室

出席者

(町長)

中 澤 恒 喜

(教育委員)

教 育 長 山 野 邦 明

教育長職務代理者 富 澤 涉 委 員 高 橋 通 泰

委 員 齋 藤 貴 史 委 員 茂 木 一 弘

(事務局)

学 校 教 育 課 長 堀 込 恒 弘 学 校 教 育 課 次 長 寺 嶋 徳 郎

社 会 教 育 課 長 丸 橋 昇 社 会 教 育 課 次 長 劔 持 晋

社 会 教 育 課 次 長 茂 木 夕 子 企 画 課 長 関 和 夫

総 務 課 長 水 出 智 明 総 務 課 次 長 寺 嶋 正 春

総 務 課 主 事 篠 原 有 紀

総務課次長

皆様におかれましては、お忙しい中、第7回東吾妻町総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。ただいまから会議を進めてまいりたいと思います。本日、進行させていただきます、総務課の寺嶋です。よろしく願いいたします。
それでは、会議次第に従いまして、進めさせていただきます。最初に町長よりあいさつをお願いいたします。

町長

はい。皆さんこんにちは。引き続きまして、皆様には総合教育会議にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。さて、先月、長野市のエムウェーブでスケートの全中の大会がございまして、東吾妻中の山口君が500mを37秒台で滑って、4位に入ったということでありまして、また、下前君も高橋君も頑張っ
て良い成績をあげてくれたということですが、冬のスポーツでこうやって東吾妻中学校がまさに存在感をみせてくれたということは本当に頼もしく思っておるところでございます。

また、本日からコロナのワクチンの3回目の接種がコンベンションホールで始まり
ました。オミクロン株は非常に感染力が強いということでありまして、我が町も小さい子どもたちに感染が確認されたり、保育所・こども園・小学校・中学校まで確認をされているところ
でございます。教育現場の先生方は非常に、対応で大変なところだというふうに思っておりますが、町の子どもたちが東吾妻の教育で将来大きな力を発揮していただける、そういった子どもたちを育てていただくために、頑張っ
てほしいと思っておるところでございます。本日は東吾妻町教育大綱の見直しについてご審議をいただくということでございますので、どうぞよろしく願いいたします。

総務課次長

では、協議事項に入っていきますが、規定によりまして会議の議長は町長がなるということになりますので、進行をお願いいたします。

町長

はい。それでは、協議事項に入らせていただきます。まず、1の東吾妻町教育大綱の見直しについて説明をお願いいたします。

教育長

はい。お世話になります。着席で説明させていただきたいと思いますが、よろしく
お願いいたします。教育大綱につきましては、昨年度と少し内容を変えてみました。令和4年3月改訂というふうに書いて案を書いておきましたが、東吾妻町第2次総合計画、これの中の教育部門のところを参考に教育大綱を書いてみま
した。ですので、第2次総合計画とほとんどが一致しているかなというふうに思
います。ただ、この総合計画の中には、もう達成したものもあります。総合計画
を立てた時点ではまだ課題として出てこなかったものもあります。そんなものも
あるので、追加してみたり削除してみたりしながら、改訂版を作ってみました。
よろしく願います。

大綱をご覧いただく前に、すいません、訂正をお願いしたいと思うんですが、

4ページ上から(5)(6)とありまして、②育英制度の充実を図りますというところで、丸で経済的理由により、この「修学」が修める学になってしましまして、就職の就のそちらの「就学」に変えてください。続きまして、もう一つ同じ「就学」で、子どもたちの「修学」とありますが、ここも就職の就に学に変えてください。よろしく申し上げます。

では、大綱についてこれを作ったことについて少し話をさせていただきたいと思いますが、まず東吾妻町が目指す将来像ということで、第2次総合計画にも住民が誇りを持って暮らすまち～東吾妻きみとあなたと～と、それが将来像であります。それを受けて、基本目標として、豊かな心を育む学びのまち、これが第2次総合計画に載っているものであります。先程も申し上げましたとおり、これを作った当時が平成30年です。それ以降コロナの感染ですとか、学校でいいますと、一人一台端末のGIGAスクール構想ですとか、文化財のほうでいいますと、岩櫃城跡の国指定がされたですとか、そんなものも入ってきています。逆にもうこども園については、全部幼稚園がこども園に変わりました。保育所についても、2カ所はらまち保育所とあづま保育所になりました。そんなこともありますので、それも含めながら少し変えてみました。

まず第一に考えたのが、幼児・園児・児童・生徒、教育に関わる保育所からのことですが、一番は子どもたちが通所・通園・通学を楽しみにできる、それぞれの場所での生活が楽しくできることってというのが前提にあります。それと、少子高齢化が進んでいる本町でありますので、子どもたちが生涯にわたって自ら進んで学習に取り組んだり、スポーツに取り組んだりできる、そういう教育が今求められていると思います。その中で、年齢を重ねても健康を維持しながら、生きがいを持った生活をしていってほしいとその願いを持って書いてみました。

そういう中で取り組むべきことということで、一つは保育所やこども園、学校で指導体制をしっかりといただくということと、子供たちの基本的な生活習慣や基礎学力の定着、このあたりをしっかりと押さえておかなければいけないことと、今すごく大切にされているのが自己肯定感ですとか、自己有用感、このあたりをしっかりと育てていかなければいけない。日本人はどれも自分に自信が持てない。私自身も含めてそうなんです、そういうところもしっかり育んでいかなければいけない。それと、先程GIGAスクール構想というふうな話を持ち上げましたけれども、ICTの活用技術、それについても教える側も学ぶ側も有効に使えるように育てていかなければいけない、そのあたりが必要だというふうに思っています。また学習環境、保育環境については、安心して本当に楽しめる生活環境を作ってあげる必要がある。ICTに関しても周辺機器の充実を図ってやる必要がある。そういう中で、それぞれの施設運営についても、働き方改革、そのようなこともありますので、それも含めながら環境整備に努めていく必要があるだろうと。あとは、社会教育も含めて、生涯学習するまたは生涯スポーツを楽しむ、その環境をしっかりと作る必要があるだろうと。例えば、生涯学習の推進計画、またはスポーツの推進計画、そういうものを策定して、誰もが見通し

をもった活動ができるような、そんなことが必要であるだろうと。そういう中で、学習環境を整備する、またそれに対して町民にいっぱい情報発信する、また興味のあるような講演会やイベントを開催するというような、学習を楽しめる環境づくり、それとともに、社会教育におきましては、団体の育成また個人の指導者の育成、ここも一つの課題にあるのかなというふうに思っています。そのあたりも重点にまた取り組んでいく必要があるかなというふうに思います。また、文化財の方面では、岩櫃城跡も含め、東吾妻町もたくさんの文化財があります。そういう保存整備に力を入れて、将来にも財産を残していく必要があるというふうに思っております。そのためにも保存整備計画を作ったり、または目に見えない伝統芸能などの伝承です、そういうのもやっぱり残していく必要があると。それも含めて、そう簡単にはいかないかもしれませんが、町の役場すべてをあげて課題にあった町史の編纂ということも考えていく必要があるのかなと。これ年数としてはたぶん7年ですとか8年かかるかもしれませんがけれども、その取り組みを徐々に始めていく必要があるかなというふうに思っております。

それともう一つは学校と地域、社会教育と学校教育とありますが、子供は地域の宝という言葉もあるんですが、地域で子供を育てていく、そんな環境をこの少子高齢化社会においては作っていく必要も出てきているかなというふうに思います。文部科学省のほうでも、努力義務ということで、令和4年度までに学校運営協議会を立ち上げていただきたいなんてこともあります。あくまでも努力義務ということですので、やりなさいということではないんですけども、地域をあげて学校を子供たちを育てていきたいと思いますというのであります。特に、中学校の部活動の関わりにつきましては、学校教育の中で、働き方改革で、だいぶ時間外勤務が長いです。もう月に80時間を超えてしまうというようなところも出てきているんですが、それもやはり部活が大きな影響を起しているところがあるということで、全体として、地域として子供のスポーツに関わる機会の確保または充実少し力を入れていきたいと思いますというので、国をあげていろいろな方策を今立てているようです。ただ本町としてもそれを踏まえながら、スポーツ協会やいろんな指導者等とも話を進めながら、地域をあげて取り組む姿勢をやっぱり今後は作っていく必要があるかなというふうに、そんな感じに思っております。

今、大雑把に話をしましたが、大綱の内容を見ていただきますと、1ページ目には、1番から始まりまして、3番は今の社会を取り巻く社会情勢ということで、今の情勢を書いておきました。インターネットに関わること、SDGsに関わること、グローバル社会の中で生きていくためにということも書いておきました。そんな社会情勢の中で、大きな2番として、2ページ目から学校教育の現状、4ページ目には社会教育の現状ということで、学校教育と社会教育に分けて書き出しました。特に、学校教育の現状の課題ということで、丸を8つの大きな課題のところ現状を書いておきましたが、それを踏まえて、3ページはじゃあどういうふうにしていこうかということで、それぞれの方策の方向性を(1)から

(6) まで、細かく言いますと、(1) そのあと①②③というような具体的などころを書き出しておきました。重要と思われるところを書き出しておきましたので、こんな流れで大綱を作りました。社会教育につきましても、同様に町民が楽しみながら参加・活用できるような講座・イベントというところから始まりまして、文化財の保護も含めて現状を書き出しておきました。特に下から5つ目の丸ですが、26年3月18日に「スポーツの町宣言」を本町では決定をしたわけですが、それに向けて、来年度はスポーツ推進計画を作るということで、社会教育課全体で今取り組もうとしているところであります。計画を立てることで、スポーツ協会等との連携をスムーズにできるようになるかなというふうに思っています。それを受けて、社会教育の5ページ、基本方針ということで、8つの方針を書いておきました。方向性として、5ページ6ページそれぞれ細かい(1)から(2)、(1)と(2)しかないのですが、(1)は生涯学習・生涯スポーツの推進に努めます、6ページには、(2)文化・芸術の振興と充実に努めますということで、それぞれの課題を解決するための方向性について書き出しておきました。大綱として、このような内容で来年度は進めていけたらというふうに思います。簡単ではありますが、大綱の説明をさせていただきました。

また、机上に3枚綴りの絵みたいなものを用意させていただいたのですが、1枚目のところは、これは大綱をまとめたものとして、簡単にどんなことをやっているのかというのを皆さんに簡単に理解していただくための教育行政方針というものを作ってみました。2枚目は、これは学校・こども園・保育所の先生方に、また保護者の皆さん方に簡単なこんな取り組みをしますよ、一緒にやっていきましょうという、そんな形で、皆さんが簡単に見られるように作ってみました。3番目につきまして、これは社会教育のほうでそれぞれの活動を推進をしていく内容をここに挙げておきました。ただ、その推進を図るには、一番右下のところにもいろんな委員会名が挙がってるんですが、こういう専門の委員の皆さん方のご協力をいただいて、やってっているんですよというのを理解していただくような形で図として作成してみました。これまたいろんなところで皆さんにこの大綱を含め、理解していただくのに使っていただけたらというふうに思って作ってみました。

簡単ですが、以上、説明をさせていただきました。

町 長

はい。教育を取り巻く社会情勢から学校教育、社会教育などについてご説明をいただきました。この教育大綱の見直しについて、ご意見やご質問やございましたらお願いいたします。

富 澤 委 員

はい。

町 長

はい、どうぞ。

富澤委員 非常に分かりやすく、良い文章かと思います。ただ、単なるミスかなと思うんですけども、3ページの施策の方向性、これは3番になるかなど。1、2ときてるので3番かと。

教育長 失礼しました。その通りですね。

富澤委員 それからあとは2ページと3ページ、本町の学校教育、本町社会教育ということで、1現状で次が基本方針があるんですけども、もし完全に合わせるとすれば、2番の基本方針、2ページの方を「学校教育の」を入れると、5ページ社会教育の基本方針と合うかなど。2ページの2基本方針、これを学校教育の基本方針とするか、あるいは5ページ社会教育の基本方針の「社会教育」を削るか、そうすれば完全に合うかなというふうに思います。それとあと6ページなんですけれども、6ページの(2)文化・芸術の振興と充実に努めますと。①文化財の保存と活用を進めますと。②でまた文化財の保存と活用拠点の整備を検討しますで、ちょっと重複しているかなと思うので、②のほうの文化財の保存とというのこれちょっと重複かと思うので、文化財の活用拠点の整備を検討しますという形ですかね。保存保存と2回出てくるので。以上です。

教育長 ありがとうございます。

町長 短い時間で素早く気づきましたね。
はい、他にございますか。

高橋委員 はい、すいません。

町長 はい。

高橋委員 同じく形式的なことなんですけれども、6ページの(2)文化・芸術の振興ということで、①②③ときて、④がないですね。それから、3ページ、非常に細かいんですけども、「子どもたち」という言葉の使い方があるんですけども、(1)の②のところは「子どもたち」という平仮名が使ってあるんです。(2)の①豊かな人間性を育成しますのまるぼつの1番目は「子ども達自ら」って言って、ここは漢字が使ってあるんですね。だから、表記は統一をした方が良いのかなど。

町長 そうだね。

教育長 ありがとうございます。

高橋委員

形式的なことです。

町長

他にどうでしょうかね。

茂木委員

じゃあいいですか。

町長

はい。

茂木委員

こちらのほうも含めて、非常に分かりやすく、特にこっちが前に比べて本当にわかりやすくなったんですけれども、それは本当に嬉しいことで、こっちの表記上の問題で。基本方針Ⅰ（教育）、これは施策の方向性（１）から（６）までのかっこの内容が書かれているんですね。ところが、生涯の関係、あと文化財の関係、これは①というその下の段階のことが書かれているんですね。これは非常にどこにポイントが合わされているのかなど。基本方針だとやっぱりかっこ書きのほうがいいのかなど。じゃあどうしたらいいんだろうかと今考えていたんですけれども、基本方針３つにわけてありますけれども、社会教育の関係、基本方針Ⅱで一番最初に基本方針出てますけれども、簡単に、生涯学習。こっちが書かれていない、施策の方向性。で、ぽつで下の丸が書かれてくるんじゃないのかなと思うんですけれども。わけないで、基本方針Ⅱで生涯学習・生涯スポーツ関係でその（１）のが書かれて、施策の方向性がどんと書かれて、あとの丸、いわゆる活動だったり育成だとか、施設の整備だとか、こういうのはぽつかなにか違う記号のほうがいいのかなど。ちょっと持ってくる大きさが違うのかなど。これは本当にやってる中心がわかればいいと思いますので、書き方がもう少し統一された方がよいかなというのの一つです。

あと、それに関連して、例えば教育の基本方針、未来を担う子どもにしなやかな生きる力を育む保育・教育の推進、これはどこから来るかという、基本方針の一番最初の文章から来てる。ところが、生涯の子どもから大人まで、より多くの住民がというのは現状のほうから来てる。この来る位置も違うかなど。かたや方針のほうからどんと来てるのに、生涯のほうは現状のほうの言葉を、無理にこれ入れる必要があるのかと、入れるんだったら、基本方針の中にこれを入れて、一つは生涯スポーツのほうとわけて書いたほうが良いんじゃないかなという、統一性だけの問題なんですけど、そのほうがより分かりやすいかなど。

教育長

ありがとうございます。こちらに合わせるような形でね。

茂木委員

そう。それはぱっと見て分かるようなものですので、非常にこれは良いあれだと思いますので。

町長

はい。そこは整理し直して。

教 育 長	はい。
茂 木 委 員	あと一点よろしいですか。
町 長	どうぞ。
茂 木 委 員	質問なんですけど、しなやかに生きる力というのはたぶん聞かれると思うんですね。どういう力なのか。これ必ず前の教育長がここを入れてたと思うんですけど。
教 育 長	折れないっていう、そういう。
茂 木 委 員	持続可能になっていう、そっちの部分もあるとわかりやすいかなと。
教 育 長	一番のところは、しなやかには、いくら風が吹いてもうまく逃して、倒れることはないというそんなような力ということなんですけど、早い話、このところで育てたいのは、自己肯定感ですよ。そこのところをしっかりと育ててあげるといって、なかなか説明しづらいんですけど。
高 橋 委 員	すいません。それに関連していいですか。
教 育 長	はい。
高 橋 委 員	私もそこ聞こうと思ってたんですけども、よくわかんないんで、前の教育大綱をネットで見してみたんです。そしたら、平成28年度のところに規定してあるんですよ。
教 育 長	なにを。
高 橋 委 員	しなやかに生きる力。それは現在どう活きているっていうふうに考えて良いですか。
教 育 長	その意を汲みました。
高 橋 委 員	確かな学力・国際社会に生きる力、豊かな心・感受性、健やかな体・健康安全な生活を営む力、これをしなやかな生きる力っていう。それがずっと踏襲させているってことなんですかね。
教 育 長	そうですね。今申し上げたように、いろんな部分でくじけずっていう、力強く

頑張るその力というその意味で作ったんですけれども。

富澤委員

あと、普通はしなやかに生きるとか、それがちょっと前こだわって、「しなやかに」じゃなくて「しなやかな」なんだということで、前の教育長さんこだわってたような。「しなやかな」なんだ。ただ、そこまで我々読む人とかは文学者じゃないから、あんまりこだわったりするよりは、むしろ具体的にわかりやすい言葉で思い切って変えちゃったって、逆に突っかかる要素になるっていうか、あえて入れる必要があるのかっていうのが。

教育長

もっとわかりやすく、こちらのほうの力のほうがわかりやすいですかね。

富澤委員

曖昧にはわかってても、漠然としなやかなんだから、それこそ、柔軟にっていうことはわかるけれども、こういう大綱なんかでは、こういう言葉って必要かなっていう感じで。以上です。

教育長

ありがとうございます。

齋藤委員

じゃあいいですか。

町長

はい、どうぞ。

齋藤委員

今までより、だいぶ分かりやすくなって、削ぎ落とされてシンプルになったのかなと思うんですけれども、以前から私いつも思っていて、この年度の取り組みの方針なわけなんですけど、基本的には網羅されていてですね、これ1年のうちに全部やって成果を生むって大変だなと思っていて。たぶん行政職員の皆さんもそうでしょうし、教育現場のほうも結構大変かなと思って。例えば去年あたりのこの方針だとこれ読んだだけで先生引いちゃうんじゃないかなと思ったりしていて、それがだいぶ分かりやすくなったんですけれども、できるならばこれが年度の方針なので、今年1年これで成果を上げようっていう、短期的に集中して皆で取り組もうよっていうのが学校教育・社会教育の中で、本当一つで良いので、びしってあるともっと分かりやすいのかなと思ってます。今年1年はこれ集中してやりましょうよという。これは10年間。10年間のものだけど、やっぱり毎年この会議ってやってるし、ということはやっぱりこの年度、次の年度に向けてという会議だと思うので、個人的にはそう思ってます。

教育長

はい、ありがとうございます。令和4年度取っちゃったほうがいいですかね。

富澤委員

はい、よろしいですか。

町	長	はい。	
富	澤	委員	この「生きる力」って書いてあるプリントの、真ん中らへんの両サイド、保育所と小学校・中学校なんですけど、生きる力・非認知能力を育むって、去年も非認知能力ってあったんですけど、言葉っていうのは万人が簡単に理解できるような言葉がいいと思うんですよね。あんまり専門用語とか教育者じゃないと分からないっていうよりは、本当にぱっと読んだらすぐ頭に入ってくるような言葉に私は変えてったほうがいいんじゃないかと思うんですけど。以上です。
教	育	長	これは前任のところのを大きく図に表したもので、米印で下のところに書いてはおいたんですけども、なかなかね、非認知能力っていう、なんだこれはっていうそこらへんが出てくると思いましたので。特に先程からも申し上げており、自己肯定感を含めた、なかなか数値に表せないような、そんな力をしっかり見極めて、育てていくということなんですけれども。わかりました。このあたり少しまた名前を変えて表現したいと思います。
町	長	どうですか、職員のほうで何かありましたら。	
高	橋	委員	すいません。いいですか。
町	長	はい、どうぞ。	
高	橋	委員	2ページなんですけれども、さっきの生きる力で申し訳ないんですけども、大きい2番、本町の学校教育、一番上のほうですね、学校教育の現状があって、その中の丸の1番目の2行目ですかね、一人一人がここには確かな学力をつけとあって、豊かな心と健やかな体、生きる力を育みってこうあるんですけども、これ4つ羅列されてるんですけども、生きる力の3つの要素がやっぱり学力と豊かな心と健やかな体っていうふうに捉えれば、ここに生きる力は無くてもいいのかななんて思ったんですけども。あるいは、まとめて生きる力でもいいのかなと思ったんですけども。一般的にそうかなと、そういう気が私でしたんですけど。
教	育	長	そうですね、並列ではないですかね。
高	橋	委員	並列ではないと思います。
教	育	長	はい。生きる力にまとめてしまってもいいかもしれないですね。
高	橋	委員	それでもいいかなと思います。

教 育 長	具体的にはまた後で。
高 橋 委 員	はい。
教 育 長	はい。ありがとうございます。
茂 木 委 員	一つよろしいですか。
町 長	はい、どうぞ。
茂 木 委 員	こっちのほうの関係で、今日の予算の説明の中で、外国語コーディネーターにかなりの額を取ると、本当にこれは長いスパンのだと思うんですけども、それが入ったほうが、説明の中で例えば今年度少し重点的にここやりますよだとか、学校教育両方に関わることだと思うんですけども。学校教育だと、ICTなんか書いてありますけれども、そっちは入ってきてない。町で力を入れていくのであれば、こっちのほうには加えていっていいのかなと。現状の中にもいわゆる外国語教育を必須化した社会と書かれていますので、せっかくのメインとなる予算を取ったわけですから。
町 長	一つの日玉としてね。
茂 木 委 員	日玉としてそういうのを入れていくと、少しずつ納得するんじゃないのかな。
教 育 長	社会教育のほうに入っていないですね。
茂 木 委 員	入っていないですね。
教 育 長	学校教育のほうは外国語教育コーディネーター入れてあるんですけどね。
茂 木 委 員	こっちにも入れたほうが、地域住民のも含めたほうがいいでしょうから。
教 育 長	そうですね。ありがとうございます。
富 澤 委 員	基本的には非常に分かりやすくてよろしいかと思います。
町 長	はい。それでは、だいたい意見が出揃ったようでございますので、今のご意見を活かしたいと思います。 それでは、教育大綱の協議については終了いたしましたので、その他についてなにか皆様からございましたら、お話をいただきたいと思います。

齋藤委員

はい。

町長

はい、どうぞ。

齋藤委員

はい。教育のほうであります、AIとか高度情報化ですとか、GIGAスクール、それに絡んでなんですけど、僕は本業が新聞屋ってことなんですけど、去年から上毛新聞社が共愛大学と包括提携を結んで、マイクロソフトの協力も受けて、子ども向けのプログラミング学習として、ゲームでマインクラフトっていう街づくりをする人気のゲームがあるんですけども、その新聞から地域課題を学習して、総合学習のような形ですね、その地域課題をマインクラフトっていうゲームで反映させる街づくりをやりましょうっていう教育を始めるってことが決まりました。ただ、コロナで中止になってるんですけど、たぶんそのうち動き出すんですが。このマインクラフトってただのゲームなんですけど、ロボットに命令を与えて、いくつものロボットを動かして街をつくるっていう、要するにプログラミング技術なんです。それを、楽しみながらプログラミング、そして地域のことを学ぶっていうことなんですけれども、これいいなと思っていて、その提携する地域を探してまして、是非うちの町なんかで名乗り出ると面白いななんて思ったんですけど。先生方はたぶんプログラミング学習っていうのは結構大変ですよ、やっぱり。ただこれは、共愛の研究室、学生が来て子どもに教えてくれるので、先生はたぶんそこに一緒に学んでればいいんだと思うんですよ。そういうものが、僕が知ってるのは上毛ですけども、他にも似たようなものってあると思っていて、こういうものを取り込んでいくことによって、このITの勉強、地域の勉強、それを先生の負担とか少ない中で、お金の負担なんかも少ない中でやれるんじゃないかと思っています。それと合わせまして、ちょうどこの時期って国の予算とかが決まって、この前文化庁のホームページを見たら、文化庁の補助金ってすごいんですよ、コロナっていうのもあると思うんですけど。うちの町ってよく考えたら、岩櫃城もそうですし、吾妻渓谷、槻木って、国の指定の文化財があって、たぶん、使いやすいと思うんですね。ただやっぱり時期が時期で、短い期間しか募集してないとなかなかエントリーしづらいんですけども、先程教育委員会の話の中であって、解除条件付きっていうやつですよ、これにエントリーするっていう方針の予算みたいなものを作って、取り組んでいければ、より町としての持ち出しは少ない中で、特に社会教育のところでは、効果を出していける事業がたくさんありましたので、そういうものを使っていくのがよろしいのかなと。特にさっきプログラミング、今DX、デジタルトランスフォーメーションと文化っていうものを組み合わせてっていう事業ってすごくお金が付くので、これはその教育にも落とし込めることであるから、社会教育と学校教育とダブルで効果を出していけるんじゃないかなと思っています。

町長

はい。そうですね。支部で言った話だと、プログラミングのそういうスクー

ルがあって、学校ではないんですけどね、小学3年生ぐらいからそれを受けて、大変面白いものが出てきているようですから、そういったものもこれから取り入れていけばいいんじゃないかなと思いますね。

学校教育課長 補足説明させていただいてよろしいですか。

町 長 はい。

学校教育課長 齋藤委員がおっしゃいましたマインクラフトの関係ですとか、令和元年度の末に上毛新聞社さんのほうからお見えになりまして、そのプログラミングの県内の組織みたいのを立ち上げますと。で、上毛さんが事務局を持って、群大が入ったり教育センターが入ったり。自治体でもどうでしょうかということでお話がありました。東吾妻町はそこでもう加盟させていただいてありますので、今こういったマインクラフトとかのところにも参加しやすい体制を上毛さんと組んでますので、そういう情報がありましたら是非教えていただければ、事務局の方ともやりとりをさせていただきたいと思いますので、ご指導いただければと思います。

町 長 どうですか。

富澤委員 はい。

町 長 はい、どうぞ。

富澤委員 別件でよろしいですか。

町 長 はい。

富澤委員 私、新巻に住んでますけれども、ちょっとPRさせていただきたいと思うんですけども、今日の上毛新聞に載ってたんですが、教育委員会では発言したことあるんですけども、西島さんっていう中之条ビエンナーレに10年前から出て、中之条ビエンナーレのナンバーワン作家で、鳳凰を作って、その鳳凰は今四万のどっかのホテルに買い取られて、そっちにいてるんですけども。あと、今年のビエンナーレのポスターのニホンオオカミ、あれを金属で作った人なんですけれども、東京芸大を出て、今新巻に移住して、芸術一本でギャラリーと制作で生計を立てていける人で、もうその今作品が九州に売られたり、素晴らしい作家なんですけど。その人が今新巻に昨年の春から住んでいます。芸術家って独特なものがあるというふうに思われるかもしれないんですけど、町の草刈りとかそういう遊歩道の草刈りに一緒に参加したりとかですね、非常にとけ込んで生活をしながら、芸術で生計を立てると。今一緒にパートナーとして住んでる方の展

覧会を、今そのギャラリーで今日から開催していると。山形さんという女性で、その人はフィリピンを活動拠点にしてるんですけども、今は新巻のほうで展覧会をしている方です。二人ともビエンナーレでは著名な方なんですけれども、そういった方がせっかく東吾妻町に住んでますので、なんとかそういった人材の活用をですね、中学校・小学校とかですね、いろんな場面で町長さん他皆様方、PRしていただいてですね、そういった方を是非、自分でももちろんやって忙しい作家でしょうけれども、声掛けとかですねしていただいて、なんとか町に取り込んでいただけないかなんていうふうなことを考えてる次第です。ちょっと一言、PRですけど、以上です。

- 町 長 はい。私も2回くらい行って見させてもらいましたけれども、すごいですね。
- 富 澤 委 員 今の家ですか。
- 町 長 ええ。「newroll」っていうのは新巻を表している。
- 富 澤 委 員 まさに新巻ですね。
- 町 長 番線をくるくる巻きながら作品を作るんだよね。
- 富 澤 委 員 だから常に人と話すときも番線を巻きながら、その番線をくるくるって巻いたものを組み立てて、すごいあれですよ、筋肉からそういった骨格から全部専門的に習った人で、もう半端じゃない作家ですよ。
- 町 長 是非、皆さんも見てもらって。
- 富 澤 委 員 今ちょっと駐車場が、正泉寺、近くにお寺があるんですけど、今日から普段もずっとギャラリーでやってるんですけど、今展覧会を午後やってますので、一応Facebook等で予約制ってなってるんで、コロナ対策で予約制ってなってるので、メールなり電話なりで予約すればすぐ行けると思いますが。西島さんの作品もあるし、今は特別展で山形さんという女性の作品が、独特な、どっちかという現代美術だから、独特な作品ですけど、一見の価値があると思います。是非、よろしく願います。
- 町 長 今度は、カフェでコーヒーも。
- 富 澤 委 員 今日から。そっちの免許もあるらしいので。500円で専門的なブラジルなとかとか、コロンビアなとかとか、専門的なコーヒーも作家が入れてくれるそうなんです。その前の展覧会は、3人とも芸大の彫刻を得た人で、それもまた木を削

ったりアクリルを削ったり、すごい彫刻だったですね。今回はまた趣向が違いますけど。川向こうにあるうた種っていう、前の風景っていったかな、ともいきっていった喫茶店がうた種ってなって、そこと同時開催で山形さんっていう女性は接着剤に色を付けて細胞を作ってる。それをうた種とnewrollで同時開催してます。入場無料ですので。あと、西島さんの作品でイヤリングとかいろいろ、そういうのも売ってるようです。若い女性はどうですか。以上です。

町長 はい。そうですね。良い話いただきましたね。他にはどうでしょう。

齋藤委員 はい。

町長 はい、どうぞ。

齋藤委員 じゃあ、宣伝も兼ねてなんですけど。駅前の忍者のミュージアムですけども、コロナもあって、だいぶ暇だったんですけど、暇で困ったななんて思ってたんですけど。あそこVR、仮想現実のゲーム、子どもが好きなチャンバラゲームが入ってるんですけども、それを作ってるのが大阪のITメーカーで、コンテンツ作ってる会社なんですけど。その会社が年末に急に話を振ってきたんですが、にんぱくさんの忍者の文化財を使って、デジタルミュージアムを作りたいって言うらしいんですね。そのVRで仮想空間のミュージアム。そこはすでに京都の仁和寺と二条城のそういうものを作り始めていて、一部できてまして、それ体験させてもらったんですけど、面白いんですね。普段見れない仏像のところも本当目の前に寄って、見られるみたいな、とても楽しい世界だったんですが、それをにんぱくさんで作りたいって言いまして、それなんでかなっていったら、海外に向けて有料配信したいって言うてるんですね。日本はVRの市場ってまだ無いんですけど、海外では普通に家庭の中にVRのセットがあって、みんなで楽しんでるっていうんですね。それにあたり、仁和寺と二条城すごいんだけど、なんととっても忍者のほうに人気があるからみたいな話で、それをパッケージにするために忍者が欲しいっていうことだったんですね。普通1,000万以上とかかかる仕事だと思ってるんですけど、全然無料で作りますとかで。それ面白いからお願いしますなんて言ったんですけど、その条件っていうのがあって、文化財を3Dのデータにしないといけないんですね。写真じゃなくて、3D。ボールを持ったときに持てるとかできるもの。それをファイルを作ってくれば無料でやりますなんて言って、じゃあ暇だから作りますかねなんて言って、作り始めてるんですけど。これが面白いんですよ。すごい難しそうなんですけど、最新のiPhoneで一つの物をいろんな角度から全部で50枚くらい写真を撮って、iPhoneの中にあるアプリで変換させると、3Dのファイルになっちゃうんですね。それを今うち障害者が結構働きに来てて、その障害者にそういうことやらせたいんだなんて言ったら、その専門家の方が、東京の方なんですけど、その方針に感動してくれ

て、にんぱくの意義みたいなものも、駅前を賑やかにしたいとか言ったら喜んで来てくれて、障害者に教えてくれたんですね。障害者もバリバリそういうのできるようになって、しかも役割分担があって、写真を撮る人、ひたすら回す人、そしてそれをパソコンが好きな人は在宅でパソコンで編集する人。役割分担ができて、完全にうちVRのミュージアムができそうなんです。VRのミュージアムはたぶん群馬では初で、それなりに注目されるし、全国でもなんといっても仁和寺、二条城、にんぱくですから、結構な事例だと思うんですね。一気にその世界ではノウハウ的には最先端という感じになってまして、これも障害者が喜んでやってるんですけど、これも教育に活かせるなと思って。専門の先生は iPhone で岩櫃城を3Dにできるんですよ。みんなで岩櫃城に登りながら、動画を撮るように撮っていくと、ガラガラポンと3Dになっちゃうんですよ。それデジタルツインっていうらしいんですけど、そういう史跡ですとか古墳とか文化財だけじゃなくて、町全体もそうですね、さっきのマイクラフトじゃないですけど、そういうものができるので。にんぱくさんは障害者がそのノウハウを学んじやったし、編集できる人もいるから、これはもうデジタルツインの町にできますよって言って、その方喜んで、産業技術総合研究所とか奈良文化財研究所とか古代文明文化遺産学研究所とか古代文明文化遺産学センターってものを繋いでくれようとしてまして、あんなところですけど、ちょっとすごいことをやっていますよと。これは絶対教育のほうにも活かせるし、文化財・史跡の活用なんかにもとりあえずデジタルツインにしておくと、防災も含めて、街づくり何にでも活かせるので、いっそのこと町として、一緒に取り組んでもらえると面白いかなって思っています。それこそDXも全然取ってこれますので。

町 長

わかりました。いい話聞いたね。他にはありますか。よろしいでしょうか。それでは、協議事項が済みましたので、事務局のほうへお返しします。

総務課次長

はい。大変お世話になりました。以上をもちまして、第7回東吾妻町総合教育会議を終了させていただきます。大変ありがとうございました。